

普及活動検討会実施報告書

(石巻) 農業改良普及センター
実施月日：令和元年8月27日
実施場所：石巻合同庁舎(石巻市)

1 検討内容

No	検討項目
	プロ課題の進捗状況 課題No1~4

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者		学識経験者	
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

※下記「評価結果」欄の◎印は、提出があった「普及活動検討会評価表」(別記様式第1号)の「評価(評価できる点や改善すべき点)」欄に記載された内容を転記。

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
プロ課題の 進捗状況 課題No. 1	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで大雑把にしか経営状況わからなかったが、特にミニトマト部門の収支決算で現状の把握につながっている。 ・データを見ながら経営がプラスになるように社員やパートに見せたりして活用し、頑張っていきたい。 ◎経営管理能力向上では、ハンズオン事業導入された組織については、意識の変化もみられPDCAサイクルを回す動機付けとなっている。 ◎経営管理能力向上支援における品目別収支の試算支援は良いと思う。 ◎支援対象, 課題は適切と思う。定性目標に異議はない。定量的数値目標を定めている点も評価できる。 ◎定量的数値目標はもう少し高くても良いと思う。 ◎個別の経営体の財務状況については不明なので、私から課題を指摘できないが、新たな品目を導入する場合、作物特性や肥培管理について十分な研修が必要だと思う。 ◎効率的な土地利用や省力低コスト等の技術指導の継続的な支援を行っていただき、併せて、人材育成に関する情報提供を定期的な開催の実施により、安定的な経営を行えるよう指導強化していただくようお願いしま 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンズオン支援事業(令和元~2年度)を活用し、外部の専門家を活用した伴走支援を行います。 ・農業法人を対象にした研修会, セミナーを毎年実施しており、今年度も階層別(農業法人の役員, 中堅社員, 社員)セミナーを開催予定であり、その中で、人材育成に関する内容でセミナーを開催します。

		<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎効率的な土地利用と低コスト技術は経営に直接反映するので、有効な支援だと思う。 ◎社内会議の開催，部門別採算による非採算部門の発見とその検討・改善など，外部からのきっかけが「気づき」につながっていると思われる。大切なのは「自発」ですが，その方向に誘導できていると思われます。 ◎経営体の中での構成員のチームワークが良くなければならないと考える。やはり，人材育成が第一でしょうか。 ◎新しくできた大規模経営体は経営がまだまだ未熟であり，外部からの経営コンサルタントの支援は大変有効だと思う。 ◎震災後設立された法人が，将来も地域の農業を担っていける法人になれるよう指導されている。 	
課題No. 2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・課題対象のGAP認証が停滞気味の理由はどこにあるのか。 ◎支援対象，課題は適切と思う。定性目標に異議はない。定量的数値目標を定めている点も評価できる。 ◎データに基づく管理はモノ作りの基本と思う。この点の支援は良いと思う。 ◎定量的数値目標4社はわかるが現状値が不明。努力幅の明確化をお願いします。 ◎GAPの推進や生産技術を高めて生産性を上げようとする取り組みは評価できる。ただ，規模拡大による人材不足はないだろうか。 ◎雇用拡大による人件費が経営を圧迫する場合がありますが，他産業でも人手不足ですから，雇用条件を良くしないと労力を確保できないかも知れません。 ◎GAP取得には多額の費用がかかること，GAP取得が現在の販売環境下で価格等を含め有利になっているとは言い切れないことから，“定性的目標の「GAPをとる」体制が整備される”のスタンスでよいと思われる。 ◎GAP認証取得への誘導を図るためには，きめ細やかな説明が必要と考えますので，未取得法人への更なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・認証審査を受けるように準備を進めていましたが，審査会社の都合等により受検できませんでした。その後の計画が明確でないという意味で停滞気味ですが，引き続き今年度の取得に向けて支援を実施していきます。 ・法人の経営方針や計画の作成にあたり，人材を一つの資源として考え，人材の確保，育成についても支援していきたいと思います。 ・労務管理については，研修会への参加誘導や場合によっては専門化と連携しながら，法人経営者の「気づき」などにより，更なる生産性向上を図り，安定的な雇用の確保につながるよう支援していきます。

		<p>啓発により、目標達成に努めていただくようお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎大規模園芸施設の法人は、地域の中心となる組織であり、経営が早く安定するよう、きめ細かい支援が大切だと思う。複合環境制御技術で収益がアップできればと思う。 ◎さまざまな情報提供や研修会等の開催により、GAP取得の支援やIPM・複合環境制御技術の実践など、対象となる経営体での確実に進められている。 ◎複合環境制御技術が十分活用できるように指導されている。 <p>◎対象法人に関わらず園芸法人に対する支援活動は、資料2の「4、今後の活動予定」に集約されている。ただし、法人により優先順位（経営面なのか収量アップ、GAP）が大きく違っているのが現状なので、個別に生きる支援をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の意向や現況を把握しながら、引き続き支援していきます。
<p>課題No. 3</p>	<p>3.9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎支援対象、課題は適切と思います。定性目標に異議はない。定量的数値目標を定めている点も評価できる。 ◎定量的数値目標11社はわかりますが現状値が不明です。努力幅の明確化をお願いします。 <p>・環境制御の「高度化」、生産技術の「高度化」とあるが、具体的に環境制御技術・生産技術の「高度化」とはどういうことか。</p> <p>・高度に管理するというのは、一般的な管理の幅よりも狭める、縮める、ずらすことなく状況に応じて変化させるということではないかと思うが。</p> <p>◎環境制御や生産技術の支援が高度化とは言えない内容だった事が若干、残念だった。</p> <p>・環境制御技術について、農業者の方にとって使いやすい技術になっていくためのモデルを示して欲しい。</p> <p>・測定器を活かした技術が管内では遅れている印象があるため、測定データを活かして、全体をビックデータとして、中核農家に広げることが今後必要かと思うので、今後とも支援して欲しい。</p> <p>◎いちご栽培において、IPM技術や環境制御によって飛躍的に生産性は向上したと思う。</p> <p>◎石巻地区はいちごの産地でIPM技術、環境制御技術の普及で、いちごの増収につながるよう支援して欲しい。</p> <p>◎いちごは当管内の園芸の基幹作物であり、収量向上の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定したH28年度は5経営体、H29年度は7経営体、H30年度は9経営体、H31年度は11経営体と着実に伸びてきています。 ・現在の環境制御は、これまでの栽培経験、感覚で温度、炭酸ガス濃度、湿度等を管理しているのが現状です。高度化とは、植物の生長要因である温度、湿度、日射量等のデータをセンサー等で収集・蓄積し、植物に最適な生育環境を複合的かつきめ細かに制御し生産性・品質向上を図ることです。 ・支援の高度化については、今後、普及指導員の技術レベルをさらに高めていきます。 ・データの分析、活用方法などについて、今後のプロジェクト課題の活動内容等で取り上げるかどうか検討していきます。

	<p>ための複合環境制御の実践・IPM導入などの支援がしっかりと行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎生産者による交流は少ないといった課題があるが、いちごについては、新技術の導入が若い生産者を中心に徐々に浸透しており、技術革新が見受けられる。 ・にこにこベリーのセールスポイントや特徴と、県をあげて売っていくという動きをがあるか教えて欲しい。 ◎「にこにこベリー」の普及も期待されますが、福岡、栃木に対抗する産地として、全県をあげたPRが必要だと思います。JAの部会が分かれてしまったのは残念だ。 ◎新品種の「にこにこベリー」も普及できればと思います。 ◎にこにこベリーの普及を期待する。 ◎生産者同志の連携が技術の発展にもつながるので、いちご部会が解散した後、情報交換の場を設けている。 ◎石巻地域をいちご産地としての地位を向上を図るためには、統一した栽培管理が重要と考え、各法人や組合間での情報交換が必要であるため、更なる機会の提供を図っていただきたい。 ◎JA管内の生産者交流による産地の維持発展に向けた重要な取り組みであり、引き続き実施いただければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IPM技術や環境制御技術を関係機関と連携して普及するとともに生産者交流や情報発信等に努めて参ります。 ・「にこにこベリー」は果実の中まで赤く、果形が良いことに加え、「もういっこ」よりも花芽分化が早く年内収量の増加が期待できます。 ・また、「にこにこベリー」は高級スイーツ用として県内の実需者向けにPR展開をしていきます。亘理・山元産は札幌向けのPRを行います。石巻産は地元および県内向けに販売PRを実施予定です。鳴瀬に設置している「にこにこベリー」の展示ほを活用して、各部会の枠を超えた現地検討会を通じて技術交流を図っていきます。
課題No. 4	<p>3. 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作深やシカの食害など、課題がある地域なので、プロジェクトは今年で終了年だが、引き続きご指導をお願いしたい。 ・リスタ大川で約200haの農地の計画があり、県内有数の規模であるなら、しっかりと支援し、絶対に成功、良い経営体になるように支援するのが一番良いと思う。 ◎県内最大級規模事業体の経営安定支援は非常に重要で支援対象、課題は適切と思います。 ◎定性目標に異議はありません。定量的数値目標を定めている点も評価できる。 ◎H30収量目標440kg、実績410kg、差異▲30kg。実績を踏まえR01年度、目標を達成するための追加対策が開けるともっと良かったと思う。 ◎説明にあった反収を上げるには、地力を上げるには、など、5～10年係る取り組みかと思う。 ◎復旧農地は作土層が少なく、収量確保が大変だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波被災農地における大規模土地利用型法人の経営安定に向け、土づくり、計画的な作業及び栽培管理、乾田直播きをはじめとした省力化技術の定着、適切な労務・財務管理など、多様な課題に対して、対象の状況に即した支援に努めてまいります。 ・土づくり、社員の栽培スキルの向上、中長期的な経営計画の着実な実施など、法人の経営安定に向けた息の長い支援についても取り組んでまいります。

	<p>収量向上につながる技術の支援を今後もつなげて経営の安定に貢献してもらいたい。</p> <p>◎技術も大切ですが、地力の向上が至上命題だと思われます。それまでの間に収量をカバーする技術的な支援を継続していただければと思う。</p> <p>◎水稲収量向上は経営安定にもつながるため、令和2年度からの営農再開する面積が多いことから引き続き支援をお願いします。</p> <p>・乾田直播きの技術はこれからも普及する技術なので、そのような技術を指導し、収量につなげて欲しい。</p> <p>◎100ha以上の経営規模となれば、省力化をいかに図れるかが、経営安定につながると思うが、直播での安定的な収量の確立が図れる工夫が必要不可欠。</p> <p>◎構成員が何人で年齢などが不明でしたが、あまりにも規模が大きいと、仕事をこなすだけにならないだろうか？</p> <p>◎農地復旧を主とする内容としては、課題も整理され今後の活動予定も明確。但し、今後の担う面積に対して、安定収量・経営を目指すためには、経営管理の部分の早めに対応する必要があると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地力の向上についても耕畜連携等による有機物の確保など、法人の作付け計画や中長期経営計画の作成支援と併せて、法人と協議してきたいと思います。 ・直播き栽培について、収量向上、安定に向けて、雑草対策、肥培管理を中心に情報提供等支援してまいります。 ・担当制による水田管理や栽培研修会を通じ、社員のやりがいにつながるような取り組みを支援しています。引き続き、専門家とも連携を取りながら、社員の定着に係る支援を実施していきます。 ・法人の中長期経営計画作成支援と達成に向けた支援を行っていきます。
<p>その他</p>	<p>◎対応すべき課題が多い中、限られた人材で多方面に良く対処されていると感じる。</p> <p>・経営の安定化という言葉が良く出てくるが、コスト削減や省力化なのか、それとも手間をかけても品質を上げる方が経営安定化につながるのか、難しいところ。</p> <p>・震災後の設立法人で、事業を利用し機械導入をおこなったところが更新時期になってきている。今後の経営安定に向けた取り組みを、引き続き普及センターに支援して欲しい。</p> <p>◎支援対象企業が固定化している感がある。管内の多くの事業体に普及センターの支援が行き渡る様、未支援先のニーズ発掘に努め、支援先を増やして頂ければより喜ばれる普及センターになると思う。</p> <p>◎震災後、被災地には多くの法人が誕生した。営農を再開したいという強い思いで立ち上がったと思う。ただ、ここに来て経営のビジョンというか、何をセールスポイントにして作物を作るか？消費動向はどのようなかなど考える時期なのかも知れない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題整理を行いながら引き続き、対応します。 ・経営体の目指す方向性を把握しながら支援します。 ・機械更新に必要な財源を確保するための収益向上への支援を行うとともに、機械導入コスト低減のための共同利用、広域連携等の様々取り組みに関する情報提供や体制づくりを支援していきます。 ・平成26年度に所内に設置した高度化支援チーム（支援対象：農業法人）が定期的に訪問しており、ニーズに合わせた経営体の安定発展に関する支援を継続します。

◎個人農家の支援，見回りもお願いします。きゅうり農家，露地野菜農家，直売所販売農家，稲作農家など。

・復興したところだけの地力ということではなく，全体的な水田の地力に疑問符がついている状況。隠れた課題として認識している。

・転作作物として，麦，大豆以外に何か作ろうと思っても，担い手不足とか，高齢化ということで，難しいと思うが，将来的には麦，大豆に代わる何か作物があるのかということで，今後ご指導いただければと思う。

◎ほ整備事業の事業採択にあたっては，麦・大豆の作付計画のみでは，採択が難しく，高収益性のある栽培計画が，求められているところである。その地区で栽培実績がない品目でもその地域で，的確にそれにあたる見込のある作物の情報提供など，更なるご支援をお願いしたい。

・関係機関（JA等）と連携し引き続き支援します。

・地域ごとの地力と有機物の流通の現状を把握し，緊急性，優先度を確認しながら段階的（エリア別等）に課題解決に向けて対応していきます。

・新規就農者（新規参入含む）が取り組める品目選定に関する情報提供や実証ほの設置を行います。

・高収益品目に関する情報提供や高収益品目の導入に関する実証ほ設置し，現地適応性や経営収支を検討し「儲かる農業」につながる高収益品目の導入支援を行います。